

地域につなごう！ 女性部は宝箱

JA 高知県女性部南国市地区 大篠支部長 窪田 理佳

私達の大篠女性部は大正 13 年生まれの大先輩を筆頭に、94 名の部員がつどっています。

大篠女性部の活動は、家の光大会や J A 行事に関連するイベントや講習会など様々ですが、中でも活発なのが家の光記事活用グループ「お・楽・し・み 二四六九女士会」という大篠女性部としてのグループ活動があります。年間を通して 8 回活動しています。6 年前に前部長が「部員たちが集まれるように！」と立ち上げ、班長などの役割がなくても常に部員同士の交流ができる会になっています。

「二四六九女士会」という名前は、元々年間に 5 回くらいの活動をしようという事で、1 年の『小の月』にあたる 2 月・4 月・6 月・9 月・11 月を漢字で表しました。女士会の「士」の字は十一月を漢字で表しています。イメージはたくましい、勇ましいという感じでしょうか？

当初 14 名で始まり、今は 50 名程の部員がメンバー登録をしています。女性部員の半分の方がこの記事活用グループ通称「女士会」を楽しみにして下さってます。参加は自由です。8 回の中で、自分の時間に合わせて参加してもらおうそんな会です。毎回 30 名前後の参加者がいます。たくさんの部員が「女士会」に足を運んでくれるというのは、うれしい限りです。

「女士会」はまず料理を作ります。食事会「ランチ」を楽しみ、その後で家の光読書会、手芸などの製作の時間です。ランチは季節の食材を使い、10 種類以上の料理がワンプレートのお皿に盛り付けられます。料理は『家の光』の「料理カード」や特集記事、付録の冊子から料理を選び、アレンジや工夫を凝らしています。「女士会」のレストランで楽しくランチを頂き、おしゃべりにも花が咲きます。

ランチの後は家の光読書会です。みんなで大きな声を出す事で、頭もフル回転して働き、同じ情報も目から耳から共有するという事も大切な事です。読書会が終わると『家の光』の本から作品を作り、部員さんからのアイデアや季節に応じた物も作ります。この 7 月には 2017 年 9 月号の『家の光』冊子から帽子を作成しました。先輩方は縫い方も早くて上手ですが、不得意な者は家に持ち帰ると仕上がらないので「女士会」の時間内で仕上げよう！とみんな頑張りました。

私達の記事活用グループは、仲間と楽しい時間を共有する事の出来る場所となっています。「食」を一緒に学び、「声」を一つにし、手芸などの趣味の時間を切磋琢磨しています。お互いの顔、存在を確認し認め合う。顔を合わす事で信頼関係や絆も作り上げています。また、女性部員として支所への出入りも多くなり、職員との顔つなぎも出来、交流も増えました。結果、J A 活動にも積極的に関わっていく事の出来る土台が出来上がりました。

記事活用グループで培ってきた信頼や絆、チームワーク、そういうもの全てがベースとなって地域への活動の輪になって広がっています。昨年で 48 回目になった地域のお祭りへの参加、出店もその一つです。また他に、大篠女性部としては大きな活動【大篠子ども食堂】を始めるといふ事にも繋がってきました。

大篠女性部は平成 30 年 5 月より【大篠子ども食堂】を始めしています。平成 29 年 9 月「女士会」の後、片付けをしていると部員から「地域の学校の夏休み明けの子どもたちが痩せている」との話がきっかけでした。子ども食堂をするためにはどうしたらいいのか？ 何から始めればいいのか？ 全く何もわからないところからスタートしました。子ども食堂をやるのだったら、場所は絶対に自分達がいいつも活動している支所の 2 階を使いたい。まずは、場所を貸してもらえるのか？ そこからが始まりでした。前支所長に役員で話を持っていき、想いを伝え、要望をあげてもらいました。子ども食堂の運営方法の話などありましたが、支所の 2 階を会場として貸して頂ける事になりました。また光熱費もみて頂ける事となり、JA の協力があつたからこそ、子ども食堂がスタートする事が出来たのだと思っています。また、役員で食品衛生責任者の講習を受けに行き、修了証書も頂いてきました。保健所や高知県への子ども食堂登録制度や補助金申請など不慣れな書類提出などと格闘し、すべて自分達部員で手続きを行いました。

子ども食堂は毎月第 2 土曜日に開催し、小学生以下無料、中高生 100 円、大人 300 円で運営しています。早くもこの令和 2 年 1 月で第 21 回目を迎えました。そして 3,600 名様に御利用して頂いています。多い時には 200 名を越え、平均 150 名以上の方がこの子ども食堂に足を運んで下さいます。【大篠子ども食堂】の特徴の一つに、大篠女性部が運営をしているという事があります。

そして、その部員達の作る野菜中心のメニューの多さも人気の理由の一つです。食材提供も部員や南国市内外の一般の方、地元の企業や JA 高知県 南国スタイルからも野菜やお米など提供して頂いています。

また誰でも利用ができます。元々、貧困や孤食の子ども達のために！との思いから始めましたが、それを含めて地域での居場所づくり！という事へと、子ども食堂の在り方が変わってきています。どんな形で運営していくかは自由です。

人気のメニューの多さは女性部ならではです。料理も今では 20 種類を超えるようになりました。子ども食堂に頂いた食材は使い切りたい!! きちんと料理という形に変えて工夫を凝らし、色んな料理を作っていきます。1 つの食材で何品も作ります。家の光料理教室で学んだ料理 [大麥の恵みを使った鶏団子酢豚風] を「女士会」で作り、子ども食堂用に子ども向けにアレンジして出しました。また、2019 年 12 月号の [ハクサイとベーコンのスープ] も子ども食堂で出しました。部員たちはみんな自分の役割を見つけ、この一瞬に気持ちを集中させていきます。子ども食堂に来れば、大人も子ども達も自由に旬の料理や季節の果物など、お腹いっぱい食べる

事ができます。世代の違う地域の大人や子ども達が会話をし、また子ども達だけでなく親子で楽しくおしゃべりして食事をして下さっています。子ども食堂が色んな世代のコミュニケーションの場として活用されているのは、一つ役割を果たしているのではないのでしょうか。「子ども食堂に来れば子どもが野菜を食べてくれる」、「遅く来ても料理があるから！ おかわりも出来る！」などなど、私達もまた頑張れるパワーをもらっています。

たくさんの方の協力のもとに、子ども食堂は運営されています。今、子ども食堂に何かの形で関わっている部員は40名以上います。そのほとんどが記事活用グループ「女士会」のメンバーです。

子ども食堂というのは食を提供する場所ですが、とても色んな可能性や未来が詰まっています。私達は「女士会」でやってきた事をすべて、子ども食堂を通して実践しているのです。女性部員は女性部活動以外に個人でも活躍されている方がたくさんいます。宝箱を開けると輝いている部員さん達がたくさんいます。94名いれば94のスキルがそこには詰まっています。料理、運動、裁縫が得意な人。みんな一つや二つ得意なものがきっとあるはず。もっともっとある人もいるでしょう。そう考えるとどれ程の宝物がこの箱に入っているのでしょうか？宝箱から飛び出したら、それぞれが色んな所、場面で自分にできる事を見つけて、少し勇気を出してやってみれば、一人の力は大きな力になるのです。

私達の6年目を迎えた大篠支部の「お・楽・し・み 二四六九女士会」という記事活用グループ活動が【大篠子ども食堂】へと力を発揮し、またこの【大篠子ども食堂】が高知県にとどまらず、全国へと関心をもって頂ける活動へと進歩しているのは、とてもとても言葉では言い表せないくらいうれしい事であり、また部員や関わって下さっている方々、利用して下さる子ども達、地域の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

『家の光』8月号には【大篠子ども食堂】の活動を掲載して頂きました。私達のこの活動をたくさんの人に知ってもらえる事ができ、励ましも頂きました。

また、子ども食堂に限らず大篠地区敬老会への関わりや大篠公民館活動の豊年祭りへの参加・出店など、地域へと関わり地域へと繋がっていく私達の活動は、これからも永く永く続けていく事が出来るよう、常にいろんな事を発信し、今にとどまらず前進して行かなければなりません。

集まりの中での、何気ない時間や普通の他愛もないおしゃべり。そんな中から始まっていくのです。部員一人一人が宝物です。宝箱を開けて宝物！ 外へ飛び出して、どんどんと輝いてみましょう。そして地域につないでいきましょう。